

第3回 文化ホールの在り方検討会 議事要旨

1 名称

文化ホールの在り方検討会

2 開催日時

令和8年7月21日（火） 13時30分～15時15分

3 開催場所

広島市役所本庁舎 14階第7会議室

4 出席委員等（6名）

(1) 委員（敬称略）

勝又 英明（座長）、栗原 一浩、田中 貴宏、中川 幾郎、三宅 香織、渡邊 一成

※渡邊委員はオンラインでの出席

(2) 事務局

広島市市民局文化スポーツ部文化振興課

5 議事（公開）

文化ホールに必要な機能等と構成案について

6 傍聴人の人数

7人（報道関係者を除く。）

7 資料名

- ・ 次第
- ・ 第3回文化ホールの在り方検討会 配席図
- ・ 第3回文化ホールの在り方検討会 出席者名簿
- ・ 文化ホールに必要な機能等と構成案について
- ・ 市民アンケートについて

8 発言要旨

文化ホールに必要な機能等と構成案について

一事務局より資料「文化ホールに必要な機能等と構成案について」を説明

■資料全体に関する質問について

（勝又座長）

- ・ この会は「文化ホールの在り方検討会」ということで、広島市の理想的な文化ホールの在り方や配置を検討する会である。その検討のたたき台になるのが15ページの「本市における文化ホールの構成案」で、本日、最も議論をしないといけないところと考えている。最初に、資料全体について、質問があればお願いしたい。

- ・ 11 ページ、「本市に必要な文化ホールの機能」の「1 興行・集客機能（ライブ・エンターテインメント）」のところで、機能を実現できる施設として「ライブ・エンターテインメント型ホール」とある。聞き慣れない名前で、「平床のスタンディング型のホール」をイメージしてしまうが、そうではないと思うので、少し説明をしてほしい。

（事務局）

- ・ ターゲットを絞らないと機能が設定できないため、3 つに分けている。ライブ・エンターテインメントの分野は、音楽ライブのほか、ゲームなども含むので、座長がおっしゃった平床というよりは、舞台機構がそれなりにある、そういったターゲットの想定をしている。

（勝又座長）

- ・ 2, 000 席であれば、オペラ、バレエ、規模の大きいミュージカルも当然入ってくと思う。そういう捉え方でよいか。

（事務局）

- ・ 劇場との兼ね合いもある。劇場にはセリなどの大がかりな舞台機構が必要だが、そういったものが必要ではないターゲットもある。興行主へのヒアリングでは、2, 000 席以上のライブの需要が全国的にあるが、修繕等でできない自治体もあると聞いた。広島で文化というところで、その需要に応えたいと考えている。

（栗原委員）

- ・ 演劇は、劇団四季のように大きなものもあるが、地方公演、小劇場といわれるところの巡回公演、地元の任意団体などもあり、ひとくくりにしにくい。小劇場という言い方が適切か分からないが、言葉を使い分けるとよいと思う。
- ・ ライブ・エンターテインメント型は2, 000 席の需要があるということだが、土日に集中しがちになる。平日の活用について、何か案があるなら聞かせてほしい。

（事務局）

- ・ 休日に集中する実態は理解しており、興行主からは、地域文化の育成に平日を活用すべきという話も聞いている。ライブ・エンターテインメント型に限らず、シンフォニーホールも平日の稼働を考慮していく必要があることを、課題として認識している。

（田中委員）

- ・ 8 ページ、「関係者ヒアリングから見えた方向性」の「論点2 公演誘致機能をどう強化するか」について、検討の方向性として「公演を呼び込む都市基盤の形成」と記載されている。都市基盤の形成とは、どういうことを考えているのか。

（事務局）

- ・ シンフォニーホールやいろいろなホールは、都市のブランド力や格を上げるというところがあり、必要と考えている。また、若者や子どもたちの育成といった機能も、都市基盤として必要な役割と考えている。

（田中委員）

- ・ 都市基盤としてホールを位置付けるという話であれば、5 ページからのつながりを検討していただきたい。
- ・ 論点は4 つに絞って分かりやすくなった。一方で、9 ページにはまちづくりの観点である方向性5が入り、14 ページも5項目だが、16 ページは4項目に戻っている。これはどのような意図があるのか。まちづくりの観点から、方向性5の位置付けが気になった。

(事務局)

- ・論点はシンプルにしたいと考えて4つにしたが、絞りきれないところがあり、論点と方向性が全てイコールにはなっていない。例えば、9ページの方向性1と方向性3は若干被るところはあるが、方向性3では「専門文化機能の強化」と記載しているのは、次世代の文化の育成についてもニュアンスを出したいという思いがある。区民文化センターとは異なるホールとしての機能も考えている。

(田中委員)

- ・まちづくりという観点から、項目5は大事だと思う。この観点は残してほしい。

(三宅委員)

- ・この検討会では最初に、青少年の育成や、そもそも広島をどうしたいかというビジョンがないといけないのではないかと議論があった。ホールに集約したことでその辺りの議論がそぎ落とされ、資料から読み取れなくなっている。先ほどの説明でその辺りもちゃんと考えてくださっていることが分かったので、しっかりと市民に伝わるようにしてほしい。
- ・「1 興行・集客機能（ライブ・エンターテインメント）」の部分について、ファシリティ・マネジメントの観点から公共施設を見ると、費用や人手不足などの諸事情から、全国的にアリーナや庁舎の建て替えが止まっている。そういった傾向を踏まえると、本当に3つの施設を建てられるのかというのは、皆さんが頭の隅で思っていることで、それに対して広島市としてどういう考え方でやるのかというメッセージの出し方が大事だと思う。
- ・一般論でいうと、最終的に3つの機能に落とすとしても、「1 興行・集客機能」に書かれている宿泊施設については、最近役所が税金を使ってやることではない。民間で、集客力のあるところに適切な規模で収入を上げる事業を持っている人が施設も作る。そこで、関連する自治体として、土地を提供するとか、バスなどの交通路線の開発に協力するという、公民連携でやる流れになっている。最終的に取りまとめるときには、夢物語を書いても仕方がないので、ぜひ財政的な視点を含めてほしい。今回の資料は抽象度が高すぎて、先ほどの都市機能についても、言葉だけでは読み取れなかったもので、その辺りは特に丁寧にまとめていただきたいと思う。

(事務局)

- ・都市整備については御指摘のとおりだと思う。単体で難しいことは認識しているが、市民のニーズがあるところには応えていきたい。
- ・最終的な報告には、これまで議論してきた発信や文化育成について盛り込むようにする。
- ・今回は、今ある2つのホールを今後どのようにしていくのか、皆さんが将来にわたってどういうものを必要としているのか、向かうべき方向性を整理したいと考えた。理想像を整理した上で、財政的な負担や整備手法については次回、整理させていただきたい。

(渡邊委員)

- ・1点目は、4ページから「関係者ヒアリングから見えた方向性」として、今回、御尽力いただいて多くの関係者からいろいろな話を聞かれている。関係者とはどういう人で、どういった観点で話を聞いたのかが示されていないので、補足説明をいただきたい。
- ・2点目は、三宅委員の話と関係するが、今回は、関係者からのヒアリングを中心に、必要性という観点から15ページの結論が導き出されている。必要性では1つずつの施設をつくると一番よいが、一方で、広島市や広島県の総合計画や公共施設等総合管理計画などと

の整合性も求められるので、フィジビリティ（実現可能性）の観点から、最終的な方向性を導き出すべきだと思う。

- ・3点目は、17ページの「今後の検討の方向性」の一番下に「在り方案（素案）の作成」とあり、ここが最終的なポイントになると思う。この検討会の最終的なアウトプットとして、整備手法や運営手法に踏み込むのか、PFIといった官民連携の手法にまで踏み込んでいくのかといったイメージを教えてください。

（事務局）

- ・1点目の関係者については、匿名でヒアリングをしたのでお名前は控えさせていただくが、ライブ・エンターテインメント関係の大手企業、クラシックのプロモートをしている企業、公演を行っている文化団体、演劇を行っている大手団体、クラシックに関する大手団体、地元団体などに話を聞いた。教育機関に関しては、市の教育委員会、小中高の学校の先生方など、福祉機関に関しては、様々な福祉団体にお話を伺った。施設の管理者としては、今回の文化ホールの検討対象となっている広島文化学園 HBG ホール（広島市文化交流会館ホール）、JMS アステールプラザ大ホール（広島市文化創造センター大ホール）、上野学園ホール（広島県立文化芸術ホール）の3施設と、県内の他の文化芸術ホールの指定管理者の方にも御意見を伺った。
- ・2点目は御指摘ということでよいか。

（渡邊委員）

- ・今回は各団体の必要性に基づいて整理をするということで了解したつもりである。現実を踏まえた話は次回以降だと思っている。

（事務局）

- ・3点目については、整備手法や運営手法については取り上げるものの、どこまで盛り込むかは今後の検討となる。繰り返しになるが、今は、在り方の検討として、市の理想としてどういうホールを持つべきか、その必要性について固めることが最優先と考えている。その過程において、15ページにあげたメリットやデメリットの検討も行う。費用が大きいのでどうするかといった整備手法、ハードは作ったけれどもどのような運営をするかといった運営手法も今後の検討だが、一定程度、書き込んでいくことになるのではと思う。

（中川委員）

- ・3つの施設の機能を全て実現することが可能なのか、まず知りたい。理想だけでは、将来的に大きな財政負担を招く可能性もある。
- ・そこを考慮した上でも、演劇機能（演劇専用ホール）と音楽機能（音楽専用ホール）は不足しているし、ちゃんと整備してあげたいと思う。
- ・ライブ・エンターテインメントに関しては、文化施策というよりも、観光振興や外部人口の導入・誘致という考え方もできる。神戸市の国際展示場、国際会議場の機能と同じではないか。これを芸術文化施設と考えるべきなのかということまで考え込んでしまう。産業経済部局が支援するという裏打ちがあるなら私は賛成するが、文化振興担当が責任を持てるかというと、将来的に大きな修繕費やランニングコストがかかるのは必至なので不安がある。
- ・演劇専用ホール、音楽専用ホールについては、ここにいる委員の中でも十分助言できる力があると思うが、ライブ・エンターテインメントについては所見を述べにくい。お金をかけずにやれるならよいと思う。
- ・演劇・音楽機能については、どのような公益事業をやるかによって、ホワイエの機能、練習場、会議室などが決まってくるので、事業面で明確にする必要がある。

- ・施設の機能面も先に議論しておく必要がある。例えば、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールは小学生に『カルメン』の序曲を聴かせるということで招待し、全小学生が鑑賞して卒業するという目標を立ててやっている。ところが現実的に、観光バスを停める場所がないので困っている。観光バスを直接経費で借りてよいということでお金を出しても、バスが停められない。つまり観光バス5、6台分の駐車場が必要といったことも考えるべきだと思う。
- ・内部の音響や照明については、お金をかけると良いものがあるが、経年劣化をするので、前回も申し上げたとおり、買い取りではなくレンタルを考えたかどうか。
- ・県との連携は、広島市内に500席か600席の広島県民文化センターがあるので、その連携だけを考えればよいと思うが、市外にある県立ホールとも連携するのか、確認したい。

(事務局)

- ・上野学園ホール（広島県立文化芸術ホール）という、大きいホールとの連携を考えている。他の自治体のホールも視察したところ、バスなどの停車場所、搬入ヤードは、やはり必要である。また、途中でお話があった学校へのアウトリーチは、今後、絶対に必要になってくる。教育機関との連携は、在り方の具体的な案として掲げていきたい。

(中川委員)

- ・広島県は条例もあるし、確か文化基本計画も持っているのではないと思う。その計画から、こちらがどうアプローチできるかを読み取られたらよいと思う。都道府県と市町村の役割分担は当たり前の話で、市町村は基礎自治体として最優先が人権保障や生活保障となるので文化権の保障もしないといけない。有り体に言うならば、広島県は広島市のような政令都市を助ける義務はなく、僻地や人口の少ないところ、ホールを持ってないところを応援に行くような、総合病院的な役割を果たされるとよい。県との連携は、市内にあるホールとの役割分担だけをリアルに考えるとよいと思う。

(勝又座長)

- ・中川委員と三宅委員の話に関連して、私が最初にした質問だが、ライブ・エンターテインメント型ホールについて、私の受けたイメージは、中野サンプラザである。吸音され、残響時間が短く、ある程度ポップスに特化している。舞台技術設備が豊富なわけではなく、持ち込みに対応することによって組み立てられる。客席が段床式で、客席がちゃんとある。比較的、音響がデッドな多目的ホールのようなイメージである。クラシックコンサートはコンサートホールでやるので、ここは音響反射板がなく、自由に使える空間というイメージである。ライブ・エンターテインメント型ホールはこういったイメージでの理解でよいのか。

(事務局)

- ・どのように実現するかという細かい議論は今後、考えていくことになる。基本的には、御指摘のような機能で、完全スタンディングのような単なる箱ではない。

(勝又座長)

- ・客席があっても立って構わないが、作り方が悪いと建物が揺れる場合もある。

(中川委員)

- ・広島交響楽団の位置付けとして、広島交響楽団のフランチャイズといったことが記載されているのは、私はよいことだと思うが、広島市として広島交響楽団をオフィシャルなものと位置付けるのは決定事項なのか。

(事務局)

- ・県・市で補助金を出して運営しているので、広島市民楽団として認知されている。ある程度、楽団としてのプライオリティは必要だと考えている。

(中川委員)

- ・それを聞いて安心した。神戸市では室内管弦楽団、混声合唱団も、市長が再来年には補助金をゼロにしていると言っているが、出自を辿るとどちらも神戸市立である。自分たちが産み育てたものを、あとは自分で考えろというのはひどいのではないかという話があった。広島交響楽団の場合は私立で、市民芸術と言ってよいのかもしれない。市のフランチャイズのような位置付けをすることに関しては、どこかでオーソライズするかコンセンサスを固めておかないと、練習場所も含めての市民合意がどのくらいしっかり形成できるのかが問われている気がする。これは委員として言うべきではないかもしれないが、老婆心ながら申し上げることである。応援したいという意味で言っている。

(勝又座長)

- ・市内にプロオーケストラがあるというのはすごくよい。広島交響楽団が他県に公演に行くこともあると聞いたことがある。

(栗原委員)

- ・先ほど、ライブ・エンターテインメント型というのを、中野サンプラザのイメージという話があったが、皆さんが行かれたことがあるのかどうか分からないと思い、確認したい。ロックバンド、ポップス、アイドルといったものを想定しているタイプのホールで、劇団四季のようなものをするとき少し苦しいかもしれない。東京でいうと、オーチャードホールのような、もう少しオペラまでやろうと思えばできるようなところで、混合ということなのか、中野サンプラザのイメージなのか、少しはっきりしない。

(勝又座長)

- ・中野サンプラザは少し言い過ぎであった。ポップスがきちんとできるような音響性能があるとよい。

(渡邊委員)

- ・勝又座長が言われたように、ライブ・エンターテインメント、演劇、クラシックは具体的にどんなイメージなのかを出していただけると、議論がより具体的になると思う。
- ・広島交響楽団は、広島の四大プロの一つであり、大事だと思っている。今回ターゲットになっている広島文化学園 HBG ホール（広島市文化交流会館ホール）と JMS アステールプラザ大ホール（広島市文化創造センター大ホール）という2つの施設の中に、今どんな機能があって、このうち何を残さないといけないのかという議論が必要だと思う。例えば JMS アステールプラザ（広島市文化創造センター）には能楽堂があると記憶しているが、それはいるのか。そういう意味では、全くゼロのところから文化ホールの在り方を検討しているわけではなく、既存の施設があって、それを先々どうするのかという前提条件があるような気がする。必要性とフィジビリティを併せて考え、今ある機能をどうするのかを整理していくと具体的なものが出てくると思う。

(勝又座長)

- ・JMS アステールプラザ（広島市文化創造センター）の能楽堂は室内にある可動式のもので、あれほど本格的なものは珍しい。あれができたのは、なかなかよい時代だったと思う。

■ 15 ページ「本市における文化ホールの構成案」について

(勝又座長)

- ・ 15 ページの「本市における文化ホールの構成案」について、御意見をいただきたい。3 つの案が示されている。それぞれのメリット・デメリットはその通りだと思う。A 案は完全分離型で、3 つとも作ればよいけれども、コストが最大で大変なところがあるかもしれない。B 案は劇場独立型で、劇場と音楽ホールを作る。これはライブとクラシックで、普通の多目的ホールになってしまうのではないかと思う。音響反射板を付けるかどうかと考えると、技術的に全くできないことはないけれども、よく考えないといけないと思う。C 案はシンフォニー独立型で、ライブ・エンターテインメント型と演劇をまとめているが、演劇は規模の問題があると思う。

(三宅委員)

- ・ 先ほどシンフォニーホールは広島市にとって大事だろうというお話があったが、私も広島市の文化の特徴的な部分だと思う。そもそも 3 つを横並びで出さないほうがよい。お金も限られているので、何が一番大事かという優先順位をつけて最終報告に入れてもらいたい。
- ・ 広島市の予算で全部作ることが前提となっているが、官民連携、公民連携を取り入れることによってもう少し楽になる可能性は、事例も多い。そうするとデメリットにならない。そう単純なものではなく、実際に土地を持っているかということも整理しながらやらないといけない。
- ・ A 案で優先順位をつけると、クラシックが一番で、最終的に民間の動向を見ながらライブ・エンターテインメントは考えていこうという書き方ができるかどうかを検討してほしい。「ヒアリングをしたら全部いるから頑張って作る」というような報告書は現実的ではない。今回は議論を絞るためとして十分理解できるが、次回、素案を示されるのであれば、最初から懸念や制約があるものについて正直に書くべきだと思う。
- ・ そのように見ると、A 案・B 案・C 案をどのように比べるとよいのか、B 案と C 案の違いが分かりにくい。ライブ・エンターテインメント事業の進め方によって解釈が変わってくるので、そうシンプルにはいかないのではないかと感じている。

(事務局)

- ・ 優先順位については、我々で決めるのは難しい。今後アンケートを行って、賛否両論がいろいろ出てきたものを皆さんに御提示しながら考えることになる。我々としては、こういうものが必要で、作るにあたっては何に留意するかを報告書としてまとめていく。それを受けてどの順番で進めるかは、財政状況等も踏まえる必要がある。
- ・ 官民連携になると、行政というより、民間が主導で、提案を受けて整備することになると思う。そうすると、今思っている優先順位は変わってくる可能性がある。今ここで、市としてこういうものが大事だと考えていると示すことで、議論を御覧になり、広島市を盛り上げるためにこういうものが必要だと考える事業者もいる。そこから財政状況を踏まえて優先状況を付けていくと思う。今回、「在り方」を出し、次のフェーズで、具体的に何をどのように進めていくか、しっかり検討したいと考えている。

(栗原委員)

- ・ 皆さんはシンフォニーホールの擁護者で、広島交響楽団を応援している方が多いので、願わくばクラシックを専門のホールとしてあげたい気持ちがある。一方で、クラシックという音楽を聴くのは人口の 3 % くらいしかいない。つまり 97 % はポップスを聴きたいとい

うのも一つの現実である。広島交響楽団やクラシック音楽というものが、県民にとって何らかの応援をしてよいというようなものにならないと、先ほどの神戸の事例のように、いらなくなるということも起こり得る。

- ・もしシンフォニーホールを作るのであれば、ソフト面できちんと、こどものうちからシンフォニーホールに通わせるための予算をつける等といった公的なサポートが必要である。広島交響楽団のためにというより、県民のために作るという発想で、小さなこどもを含めて市民全体が広島交響楽団を応援してもよいとなる必要がある。
- ・サンフレッチェ広島にしてもカープにしても、こどもの頃から親に連れられていって自然とファンになっていく。スポーツは比較的簡単だが、クラシックはちゃんと聴かないといけないのでなかなかこどもを連れて行きにくいという特殊な分野になっている。その中でこどもたちと一緒に、広島交響楽団を財産として認めていくことを市として応援し、きちんとサポートし、将来にわたって応援してよいというようにしないと途中で立ち行かなくなる。シンフォニーホールを建てましょうという論理だけではなく、市民の誇りとなるようなことに市として貢献していこうという姿勢があった上でシンフォニーホールを作るのがいいのではないかと思う。

(中川委員)

- ・今の御意見は、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールにおけるびわ湖ホール声楽アンサンブルが、学校へのアウトリーチ事業の主たる担い手として県民に認知されていることと同じ構造になると思う。そうするとここがフランチャイズのホールであると市民としても承認しやすい。
- ・ホールの機能を議論するときは、どういう事業を想定するかを頭に入れておかないといけない。私は以前から文化基本計画が必要だと話しているが、できれば首長が変わっても揺らぐことがないような条例がほしい。これは大阪府における経験から申し上げている。

(田中委員)

- ・深く考えずに理想を言えばA案がよいが、在り方という意味では整備手法、運営手法とセットで考えるべきで、そこが最終的な提案になると思う。
- ・皆さんのお話を聞いて、そこで何をするかというところから機能を考えないといけないと改めて感じた。
- ・まちづくりの観点から言えば、ライブ・エンターテインメントというところはやはり期待するところが大きい。どういう形になるかというところはあるが、提案の中にしっかり位置付けられるとよいと思う。

(栗原委員)

- ・クラシックについては異論のある人はいないと思う。
- ・ライブ・エンターテインメント型の2,000席は、簡単に言ってしまうと一般の人が見たいものには最低2,000席必要だということは間違いない。ただその人たちがどれくらいツアーで回ってくるか、また残りの平日をどのように使うかという課題もある。
- ・民間の力を借りるべきだという意見もあるが、実は広島には大きなライブハウスがないという現実がある。広島飛ばしの問題だけでなく、1,000席ほどのライブハウスもなく、地元の小さなバンドがやるようなものしかないのではないかと。民間がZepp（ゼップ）のようなものを作ってくれとありがたい。民間の力によるライブハウスみたいなものがあり、若い人が来てそこで何か新しいものが生まれるという発想でないと、若い人の多くがクラシック好きならいいが、そういうわけでもないと思う。土地の提供等でライブ

ハウスが建ったりして、そこの再開発が行われるとそれなりに魅力的なものになると思う。2, 000席程度の小屋が必要なことは間違いないが、それが一つあればよいというものではない。それ以外の可能性を官民連携も含めて考えるとよいと思う。

(事務局)

- ・1, 000席規模のライブハウスはないと認識している。500席程度のものは市場としてたくさんあるイメージである。
- ・アンケートを取っていくと、2, 000席規模は必要だが、そのほかにも、という話も出てくると思う。区民文化センターもある。今回の資料にも掲載しているが、次のフェーズで、将来世代のために、市民の文化交流を含めてどういうものが必要かというところを伝えたときに、何が軸になるかという検討が出てくる。今回の議論では、まずは大きなホールとして考えることが大事だと思っている。

■「市民アンケート」について

－事務局より「市民アンケート」及び資料の17ページについて補足説明－

(勝又座長)

- ・「市民アンケート」と資料の17ページについて意見等あるか。

(中川委員)

- ・市民アンケートは絶対に必要だと思う。
- ・気になるのは、調査目的として「現在の文化ホールの利用状況や文化ホールに求める機能」とあるが、これは区民文化センターを意味するのか、そうではないのか。回答する市民はどちらのことを言っているのかわからないと思う。

(事務局)

- ・実際に調査するときには、もう少し詳しい前提条件が必要だと考えている。今回の文化ホールの検討としては、以前からお伝えしている3施設（広島文化学園 HBG ホール（広島市文化交流会館ホール）、JMS アステールプラザ大ホール（広島市文化創造センター大ホール）、上野学園ホール（広島県立文化芸術ホール））を対象と考えている。

(中川委員)

- ・対象施設名を明らかにしておいてほしい。

(栗原委員)

- ・このアンケートを実施して、どのように使おうと思っているのかなと感じた。ここにいる委員は、お金があるのであれば3つ作る案に反対する人はいない。今あるホールに対して意見を伺う内容で、将来どういうふうにしたいかを質問していない。「このように考えています」ということを言って意見を聞くのではなく、現状について聞くのはなぜかと感じた。

(事務局)

- ・優先度を定めるメルクマールになることと、今は3つの方向性を提示しているが、それがどうかという市民感覚について、まとめる前に一度知るべきだと考えた。
- ・在り方（素案）の議論の後にパブリックコメントを行い、市民意見を収集する。その上で、第5回検討会で最終的に皆さんの御意見を取りまとめていきたいと考えている。
- ・このアンケートは市民のニーズを深掘りするために実施したいと考えている。

(三宅委員)

- ・アンケートの質問と回答、選択肢全体を見せてもらえれば納得できると思うが、少し違和感がある。例えば、「文化ホールに求める機能」の中に、重視する機能の優先順位を答えてもらう項目があるが、この回答の選択肢の機能というのは、現存するホールが持っている機能しか書けないのではないか。パブリックコメントを行うときは、「新たにこういう機能を入れます」ということに対して、必要・必要ではないという回答をしてもらえるのがよいが、今の段階で求める機能や立地を聞いても、大した回答は得られず、アンケート結果は多分使えないと思う。
- ・もっとシンプルに、今の広島市の文化施策について、例えば「音楽に触れる機会がどれくらいあるか」といった内容のほうがよい。
- ・アンケートは優先度など、素案が出た後に聞くべきものが含まれているので難しい。

(勝又座長)

- ・しっかりとアンケート設計をしてほしい。

(事務局)

- ・機能については、今回お示した機能を書くことはできる。将来に求める機能は、今のものを並べることになると思う。また多目的ホールが必要かどうかについての意見を聴く必要があると思っている。事務局で整理をした上で、委員の方に個別にお諮りをさせていただき、アドバイスをいただきたい。

(勝又座長)

- ・私は多目的が悪いとは思っていない。むしろ全てのホールは多目的ではないかと思っている。例えば、コンサートホールで講演会をするし、オペラもバレエもする。演劇ホールでは、日本でも海外でもコンサートを行っている。吉祥寺シアターでもいろいろやる。国立劇場は、歌舞伎専用劇場と言われているが、多目的ホールとして設計されている。なかなか純粋な専用ホールには多分収まらないのではないかと、劇場計画をしていると感じる。あまり多目的ホールを悪く言わないほうがよい。
- ・今は多目的ホールというより多機能ホールである。音楽に特化した多目的ホールという形もある。昔は多目的ホールは無駄なものという考え方もあったが、劇場技術もすごく進歩している。逆に、舞台公演が重装備でコストが上がっているという問題が、今の多機能ホールにはある。

(中川委員)

- ・三宅委員が言われたことにも関係するが、「スクリーニング」「文化芸術への関わり」「文化ホールの利用状況」のところが実は重要だと思う。
- ・単純にサンプルを合計600取ってデータを見るだけでは、ポピュリズムに流される危険性がある。統計上、高額所得者ほど「音楽が好き」という傾向が出ている。社会的な格差が拡大しつつある中で、アートに触れる機会がどんどん減っている階層を放り出してはいけない。それを克服しようというのが、いわゆる市町村行政の責務でもあると思う。それに逆行するデータを出す危険性はないだろうか。これだけ物価も上がって暮らしにくくなっているときに「何がコンサートホールだ」と言われたら意味がない。そういったデータの使われ方にならないようにしてほしい。つまり、必要なのに拒否する人たちがいる。デマンドの調査ばかりするのではなく、ポテンシャルなニーズを捉えないと、必要なのに自分は求めているという態度を取る人もいるので、迎合するようなデータにならないように工夫してほしい。

(栗原委員)

- ・能楽堂を作るとかシンフォニーホールを作るということは、必ずしも市民全体が望んでいることではないので、市民が望むような形に作らなければいけないのではないかというのが私の意見である。それは置いておいて、多目的が100%よいとも思えない。何を主眼にするかによって、主眼ではない使い方をしたときに「だから多目的は嫌だ」と言うのだと思う。地方にシンフォニーホールがあることは、稼働率が60%かもしれないが、それでもよいという市の毅然とした態度が求められるのだと思う。
- ・アンケートで「クラシック音楽は好きですか」「広島交響楽団の定期演奏会の会員になりたいですか」と聞くと、それほど高い回答があるとは思えない。だから努力すべきだという意見以上に大事なのは、利用率というものを重視しない姿勢を将来にわたって保てるかどうか。政治的な問題もあるので保てないかもしれない。
- ・全員がいらないと言え、多分、能楽堂は作れない。日本の文化だからといって、では、いらないかということもそういうものでもないし、能楽堂の稼働率が低いからやめろというものもどうかと思う。つまり、アンケートは大切だけれども、その意見に対する「そうではない」という姿勢も含めて、最終的に議論がまとまっていけばよいと思う。

(三宅委員)

- ・中川委員が再三言われているが、計画や方向性があった上でアンケートを実施しないと、アンケートの読み取り方が180度変わってしまうと感じている。関係者のヒアリング結果は、作りたい人ばかりなので基本的に「作れ、作れ」「あれが足りない」「これが要る」というものが出てくる。でも全部を作れるわけではなく、ではなぜ広島市が税金で整備するのかを考えると、逆に、アンケートで、その文化に親しんでいる人の率が低ければ低いほどよいという形もあると思う。もし95%のこどもが広島交響楽団を知らないとなると、ちゃんと政策としてやらないといけないというロジックになってくる話だと思う。そういう組み立てをしていくには、やはり目標というか、広島市としてどういう文化的な育成をやりたいのか。やれるかどうかは別として、「やりたい」くらいは言わないと、アンケートの設計にまで影響してくると思う。

(勝又座長)

- ・今の話を聞いて、数字が低いということは、そこを上げるためにはどうしようかと考える。あるいは中川委員が最初に言われたように、広島文化施策があつてこのようにやりたいと言っている場合、その施策の関わりが低い結果であるなら、底上げをしないとけない。その根拠が文化振興政策であり、結果がこうだからというだけではなく、その考察が重要になる。
- ・「文化芸術への関わり」については、文化庁の文化芸術に対するアンケートも参考にして考察していただくとよい。先ほどクラシックコンサートは3%と言われていたが、1%ならまずい。日本国内の文化芸術に対するいろいろなアンケート結果を考察の材料としてほしい。

(事務局)

- ・広島市では10年に一度、総合計画を策定しており、その中で、個別の事業に関する政策の計画については、4年に一度、実施計画を策定し、やりながら毎年計画の見直しをしている。加えて、市民アンケートについても毎年実態調査を行っており、個別の政策に関するアンケートは行っていないが、文化を知る、触れるといった一般的なところにはKPIを設定し、そのメルクマールの調査を行っている。

- ・今回の調査については、ソフト的な政策というのは長期的には必要になってくると当然考えているが、その前提として市民の方が日常的にどのように触れられているのかという細かな調査ができていない実態があるので、そういう意味においても、別途経費を投入して調査をしていくということで御理解いただきたい。

(田中委員)

- ・日常的に文化芸術に触れられている方がどうなのかを知りたいと思ったときに、サンプル数が絞られると思う。できるだけ多くのサンプル数を確保できるとよい。
- ・数は力というところからサンプル数が多いほうがよいが、予算の制約もあると思う。
- ・質問項目については、立地やまちづくりのところが気になるが、質問内容についてはこれからか。また、見られるとよいと思う。

(勝又座長)

- ・ほかに御意見はいかがか。ないようなので、今回の議事はこれで終了する。